卒業生紹介

働くママの営業最前線　～ チームで成果をあげる働きかた ～

Takahata Yuki
高畑 侑紀

株式会社パソナ
第８営業部 特別法人チーム
チーム長

2004 年お茶の水女子大学理学部情報科学科卒業。同年（株）パソナ入社。コーディネーター職（内勤営業）を経て、2007 年より現在に至るまで営業職を歩む。2010 年営業部第１チーム長（課長職）。第一子誕生を経て 2014 年から現職。富山県出身。

キャリママチームを率いて

人材派遣大手のパソナは女性活躍支援に積極的な企業として知られる。パソナグループの女性社員の割合は約6割、そのうち3割は子どもを持つママ社員だ。育児休暇後の復職率は100％だという。復帰後も女性が十分に能力を発揮できるよう、さまざまな仕組みが導入されているなかで、「キャリアママチーム」の存在が内外から注目を浴びている。全メンバーが未就学児を抱える母親で、かつ外を飛び回る最前線の営業部隊という、非常にチャレンジングな試みだからだ。

「育休復帰と同時にチーム長と聞いたときは、１秒間はびっくり、でも2秒目には『頑張ります!』と即答していました」と語る高畑さん。入社10年目の昨年4月、2代目のチーム長を引き継いだ。メンバーは 10 名。みな 10 年以上の勤務歴があり、管理職経験者というのもこのチームの特徴だ。

大手外資系企業を顧客に、月の売上目標が億を超える部署のマネージメントが、チーム最年少32歳の肩にかかっている。「正直、プレッシャーはあります。モデルチームともなれば失敗は許されませんから。でも、これまでいつも何とかなってきたし、やるという強い気持ちがあれば、必ず周りが協力してくれると信じています」。チームへの厚い信頼が高畑さんを支えている。

営業は天職

富山の県立高校からお茶大に進学した。「特に女子大志望という訳ではなかったのですが、在学中に、一人の女性として働き、生きていく自分というものを初めて意識するようになりました。同級生の自立した姿勢からも大きな刺激を受けました」。

専門は理学部の情報科学。IT企業の目覚ましい躍進を目の当たりにして、将来性の広がりを感じ選んだが、学部卒業時に志望したのは、「人」に関わる企業での営業職だった。「人と接し、楽しませるのが好きな性格をいかせるのは絶対に営業職だと思い、文系総合職での就活をしました」。そんなとき、大学のテニスサークルの先輩からパソナのことを聞く。説明会に行ってみると、志望学生もパソナの社員も大半が女性で、皆、いきいきとしていた。「5年、10年後の働く自分のイメージがこれほど鮮明に思い描けた会社は他にはありませんでした」。

2004年パソナに入社。営業を支援する内勤職に配属され、3年後に晴れて営業職に。「早く外へ出たいとウズウズしていたので、やっときたチャンス!」と心のエンジンがかかった。以来、営業畑でひとつひとつノウハウを身に付け、実績を積み上げてきた。「誰かに必要とされることが嬉しい」から、オファーを断ったことは一度もない。派遣スタッフ向けパーティの司会を引き受け、「キャリアママチーム」についてレクチャーを頼まれれば他社に赴く。根っからのエンターテイナーだ。

理想は「食堂のおばちゃん」

2歳児を育てながら、限られた時間のなかで高いパフォーマンスをあげるために、高畑さんはITを徹底的に活用している。通勤電車の中で電子版ニュースを読み、メールでチームと連絡事項を共有。外出先でも隙間の時間を利用して次々と案件を処理していく。残業ができない分、自宅のPCから会社のシステムにアクセスする権限も付与されている。「子どもの病気など、突発的な出来事にも対応できるのもありがたいですね」。

同時に、高畑さんは、直接顔を合わせて交わすコミュニケーションをとても大事にしている。独身時代、28 歳で品川区担当の営業チーム長になり、メンバーを束ねる苦労を味わった。「話さなければ何も始まらない。最初の１年間は、ひとりでランチをとったのは２回だけ」。密なコミュニケーションを通じてメンバーひとりひとりとつながり、メンバー同士をつなげた。自然とチームがまとまり、結果もついてきた。当時の経験が今にいきている。

中学生の頃から、薬剤師として働く母に「何でもよいから好きな仕事を見つけて、一生続けなさい」と励まされてきた。「働き続けるだけでなく、やるからには上を目指したい」と語る高畑さんの理想のスタイルは「食堂のおばちゃん」だ。誰からも親しまれ、頼りにされ、周りの人に元気を与えることで、自分も輝く存在であり続けたい。

文責：坪田 秀子（学長特命補佐）
写真：村田 美七海（文教育学部、写真部）

わたしのオフタイム

韓流ドラマ鑑賞で非日常の世界に浸ることもあれば、週末は、動物や自然が大好きな娘さんと、キャンプやバーベキューをおもいきり楽しむ。そろそろ趣味のテニスやスキーも再開するつもりだ。

訂正とお詫び

第243号「卒業生紹介」左から2列5行目「昭和女子大第一号の博士となった。」の記述は「昭和女子大学論文博士第７号の博士となった。」と訂正させていただきます。また、島田淳子名誉教授のお名前にも誤りがございました。関係者各位にお詫び申し上げます。